

鶴岡市の子ども数は半減に 2050年までの人口推計

厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所は12月22日、「地域別将来推計人口」を公表しました。

2050年までの人口推移の推計は、山形

県が71万838人に、鶴岡市は7万6968人に、6割台まで減少する結果となりました。

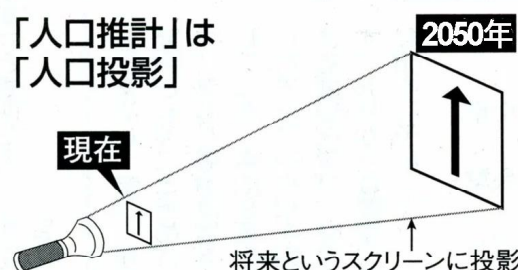
鶴岡市では、年少人口の推移を見ると、もっとショッキングです。

0～14歳の子どもの人口では、鶴岡市は2020年の1万

県と庄内市町の人口推計

	人口（人）		指数
	2020年	2050年	2050年
山形県	1,068,027	710,838	66.6
鶴岡市	122,347	76,968	62.9
酒田市	100,273	60,768	60.6
三川町	7,601	5,848	76.9
庄内町	20,151	10,773	53.5
遊佐町	13,032	6,160	47.3

国立社人研の人口推計から抜粋（2023.12.22）



「人口投影」

将来人口推計は、過去から現在までの人口学的データの傾向・趨勢（すうせい）を、将来に投影したもので、今のまま進行了した場合の人口を表し、国連などでは「人口投影」と呼んでいます（図）。現在の社会の「歪み」が将来まで続くとして、客観的に反映されたデータとなります。

今の「歪み」を、早急に是正しなければならぬことを、警告しています。

人口減少モメンタム

社人研は、数十年は厳しい「人口減少モメンタム」の時代が続くと予測しています。

モメンタムとは、「勢い」とか「慣性」という意味で、人口変動のタイムラグ（時間的ずれ）による人口の変化のことです。

「人口減少モメンタム」

ふるさと賛歌 19

鈴木重雄（八色木）

薬師堂の両羽大地震

今年の元日は天気も穏やかで、各家庭では正月の団らんであったと思うが、午後4時過ぎ、能登半島で大きな地震があり、たくさんの犠牲者を出した。今でも被害の全容がつかめず痛ましい。鶴岡市でも震度4であった。

八色木薬師堂にまつわる話では、明治27年（1894）10月22日午後5時35分、前代未聞の大地震（両羽大地震）があった。

御堂も大破に及び、御内陳のうち板走りは無惨にはずれ、敷居もみな落ちてしまったが、宮殿は危うきところ、如来様の威神力により、ただ1枚の敷板半分に割れて落ちず、残り半分は丸柱に少し止まり、宮殿は無難であった。しかし、脇立の十二神將は散々で大いに傷められた。

村中においても家屋全壊・半壊と、被害の程度はあるがその難にあわぬ者はない。その翌年4月中旬に、村中及び日向惣右衛門の寄附により、仏師海藤庄次郎と小鷹義直の2人で大修繕し、立派に出来て、御堂も傾きを直したが、追々の地震でまた傾がってしまった。

その後、年々凶作が続く、修繕の時期を待っていたが、明治34年（1901）12月11日夜の大雪と大暴風のため、西方の大杉が御堂の隅に倒れ、屋根も傷められた。

この年は大豊作で、斎藤末吉、鈴木利右衛門、飯鉢彦三郎、齋藤清左衛門、齋藤清治郎、鈴木五郎吉、斎藤伝三郎、日向惣右衛門らが世話人となって、翌35年1月から寄附を募り、寄附帳が残されている。

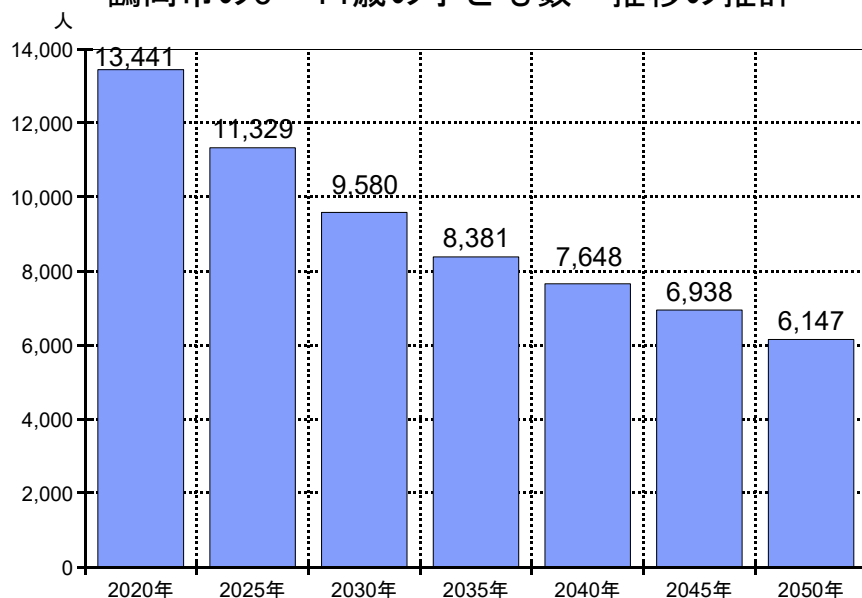
は1・26で、前年の1・30より低下し、過去最低になったと公表しています。

人口が増えも減りもしない出生率の水準である「人口置換水準」は、2・07です（2＋男児の偏り5％＋女性の出産年齢までの死亡率2％）。

それより大幅に下回る出生率は、「人口減少モメンタム」の異常な社会になっていることを示しています。

（2面につづく）

鶴岡市の0～14歳の子ども数 推移の推計



国立社人研の人口推計から抜粋（2023.12.22）

年少人口の推移は、三川町だけが改善 少子化にアクセルを踏むな！

5年前の前回調査時（18年）の2045年までの数値を比較すると、庄内5市町では三川町だけが改善（608人↓712人）しており、鶴岡市は7276人から6938人に減少傾向が進み、「歪み」が改善されていません。

鶴岡市の「歪み」の最大の要因は、複式学級の解消を目的に、学校統廃合を一気に進めたことにありました。

学校統廃合で通学に不便になった所に、子どもはいなくなります。

長期にわたって人口減少と少子化が進む社会にあって、少子化にアクセルを踏む施策は、絶対に取ってはいけません。

少子化だからこそ、一人ひとりの多様な個性の尊重、少人数による協同的な学び、地域に根ざした学校づくりが大切になります。

鶴岡市は給食発祥の地として、理想的な「自校直営方式」に転換し、日本一おいしい給食を実現すれば、劇的に子育て世代に選ばれるまちになるのは確実です。



0～14歳の人口推計（2018年推計との比較）

		2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
鶴岡市	2023年推計		13,441	11,329	9,580	8,381	7,648	6,938	6,147
	2018年推計	15,378	13,666	11,981	10,633	9,371	8,296	7,276	
酒田市	2023年推計		10,313	8,525	7,128	6,142	5,571	4,972	4,276
	2018年推計	12,168	10,552	9,249	8,273	7,330	6,520	5,756	
三川町	2023年推計		994	948	889	800	760	712	660
	2018年推計	1,009	988	938	846	758	685	608	
庄内町	2023年推計		2,167	1,735	1,413	1,155	1,014	878	752
	2018年推計	2,518	2,164	1,876	1,664	1,467	1,304	1,154	
遊佐町	2023年推計		1,210	990	807	644	545	465	396
	2018年推計	1,400	1,174	997	852	724	615	517	

国立社会保障・人口問題研究所 2018年・2023年公表データから抜粋

東田川史跡物語 巡幸の準備 ① 道路と橋

青山 崇

道路整備と官庁・学校等の洋風建築など近代化を進めること、とりわけ道路の開削・整備は巡幸を受ける最大の条件であった。

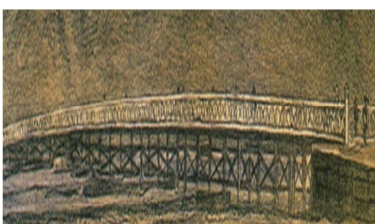
舟運では、大人数・荷物の移動はできず道路搬送しかなかった。しかし山形は三方を険阻な山並に囲まれ、馬車が通れる道もなく

道路事情は悪く遅れていた。

1876（明治9）年の東北・函館巡幸は、予定されていたが道路事情で山形は中止になった。

1876（明治9）年現山形県が成立、三島通庸が県令を引継ぎ、「土木県令」といわれたほど、道路開削・架

橋整備左図・高橋由一画「東雲橋」を県政の最重要点とした。その資金は庶民からも徴収した。



庄内では、古口と清川を結ぶ磐根新道が1878（明治11）年竣工、（上写真）は古口辺の街道で右手は最上川である。

常識はいろいろ

きびちよ



12月25日2回目の調停に行って来た。○○の常識は○○の非常識なんていう言葉があったが、常識には色々あるものだという事。

▲これは前回書いた事で「債権債務」という事です。簡易裁判所からの和解条項に「原告及び被告は、原告と被告との間には、本件に關し、この和解条項に定めるもののほか何らの債権債務がないことを相互に確認する。」とあるんです。

▲この債権債務とは、裁判で決められた金を俺が払い、相手がそれを受け取れば、それで金の事は終わりだヨ・と言っているんだと思っっていたんだが、訴えた側に葉書で質問しても答える責任がないという事のみならず、罪になるんだってヨ。

▲俺の常識では、債権

左手には数百坪の山々があるが、その一つに『奥の細道』に出る板敷山がある。

「ごてん、はやぶさなど云ふおそろしき難所有り板敷山の北を流れて、果ては酒田の海に入る。左右山覆ひ、茂みの中に船を下す・・・・」と芭蕉は書いているが、それを越える肩輿道しかなかった。立谷沢川に架かる東雲橋も同年竣工し、平坦な最上川左岸を通り、庄内と内陸を結ぶ通行が容易になった。

債務とはお金の事です。広辞苑には財産権とかで難しくあるが、法律用語でこうなんだ、とは書いていない。裁判での合意は、70対30を確認しただけで、案文を見たわけでもない。だから当然、債権債務の意味など教えてもらっていないんだが。

▲今回聞いた常識。訴状に、「事故の日から支払う責任ある金額を支払うまでの期間、年3分の割合による金員を支払え」とあるんです。世間で普通これはないでしょ・と聞いたら、訴状では普通の事なんだってヨ。確かな理由を聞いたが忘れた。

▲俺の訴状には、弁護士費用一万円が入っていたんだが、それが常識かは未確認だ。しかし、それは3%が相場みたい。だったら、俺が払う金に3%なら千円チョットだよ。それが一万円とは。次回は2月5日だ。（石川）